

富山湾の海岸に漂着したカツオノカンムリの記録

不破光大・稲村 修（魚津水族館）

Stranding records of Jellyfish *Velella velella* on the coast of

Toyama Bay, Japan

Mitsuhiro FUWA Osamu INAMURA

Uozu Aquarium

はじめに

カツオノカンムリ *Velella velella* は花クラゲ目ギンクラゲ科に分類され、外洋性で通常は沖合に生息し、海流に乗って世界中の熱帯～温帯域に広く分布する。日本の周辺では、黒潮の影響の強い太平洋沿岸部や対馬暖流に乗って日本海沿岸部にも漂着することがある。体は直径 30mm ほどに達する浮きのような水平板とその上で空中へ起立して帆部となる三角板からできている。この“帆”を風に受けて海面上を帆走する（久保田，2015）。

2022 年 7 月に、富山湾の朝日町宮崎地区の通称「ヒスイ海岸」で発見されたカツオノカンムリ 1 個体が魚津水族館に持ち込まれ、その後、朝日町大屋の海岸、氷見市島尾の島尾海岸で相次いで確認された（図 1）。富山湾では、これまでにカツオノカンムリの漂着記録が見当たらず、今回の発見が初記録と思われたが、これらの情報を 2022 年 9 月 12 日に当館の公式 SNS で公開したところ、2021 年 9 月 19 日に氷見市島尾海岸において 1 個体を見つけていたという新たな情報が届き、2021 年が初記録年となった（図 5）。今回は、2022 年に相次いで確認されたカツオノカンムリの漂着状況について報告する。

漂着記録

2022 年 7 月 27 日、朝日町宮崎地区のヒスイ海岸においてヒスイを探していた堀江健夫氏が、カツオノカンムリ 1 個体が漂着しているのを発見して魚津水族館へ持ち込んだ。また、同日、朝日町大屋地区の海岸においても、松田武光氏が 1 個体の漂着を確認した。いずれの個体も乾燥や腐敗はみられず、新鮮な状態であった（図 2，図 3）。松田武光氏は 7 月 27 日以降も注意深く朝日町大屋地区の海岸で探索を続け、2022 年 9 月 3 日に 9 個体（図 4）、9 月 10 日に 6 個体（図 4）を確認した。



図 1 カツオノカンムリの漂着地点

考察

過去の日本海側におけるカツオノカンムリの漂着を確認するために、日本海側の近隣施

設である「のと海洋ふれあいセンター」「新潟市水族館」「鶴岡市立加茂水族館」の3施設に、本種の2022年以前の漂着状況を聞き取りしたところ、以下の回答を得た。

- ① のと海洋ふれあいセンター（2022年9月15日聞取り）：毎年のように採集されるが、標本として保管しているのは少ない。2014年に採集した8個体は登録してあるが、2022年においては未確認。
- ② 新潟市水族館（2022年7月29日聞取り）：2007年9月8日に、柏崎市西山町石地の砂浜で多数個体の打ち上げを確認している。前日に台風が通過しており、その影響ではないかと考えられる。2020年9月19日に、新潟市西蒲区越前浜の巻漁港の砂浜で5個体の打ち上げを確認しており、同時にギンカクラゲやルリガイも多数確認した。
- ③ 鶴岡市立加茂水族館（2022年8月24日聞取り）：山形県沿岸においては、ギンカクラゲは毎年のように見かけるがカツオノカンムリは珍しい。これまでは2013年8月と2014年9月に捕れた記録がある。2022年は飛島という山形県の離島で確認しているが、対馬暖流の影響をかなり受けている場所であり沿岸部とは環境が異なる。飛島では、毎年のように漂着しているのかもしれない。

過去の記録では、志賀（2011）および鈴木ほか（2017）が2010年9月23日に北海道の石狩浜で大量漂着したカツオノカンムリを最北の記録として報告している。

富山湾においては、2020年10月8日に氷見市松田江浜でルリガイやギンカクラゲが1km以上にわたって点在しているのが確認されたが（木村、未発表）（図6）この時、カツオ

ノカンムリは確認されなかった。また、2022年10月21日に、朝日町宮崎沖で釣りをしていた朝日町漁業協同組合所属の漁業者である加藤康介氏から、海面に浮かぶギンカクラゲの写真がSNSを通じて筆者のもとへ送られてきたが、カツオノカンムリは見られなかったという（図7）。

富山湾は自然海岸延長の割合が約5%と低く（海岸延長136.4kmのうち自然海岸は7.2km）（環境省）、海面浮遊性動物の漂着するような海岸が少ない。また、聞き取り調査をした近隣施設周辺の海岸状況と比較すると、富山湾は西から南を能登半島と富山平野に囲まれ、北から東側は日本海に大きく開けている半閉鎖性湾であり、対馬暖流の影響を受けにくく内湾的な環境にあることから、浮遊性動物の漂着が少ないと推測される。富山湾周辺の対馬暖流の流動場の解析を行っている相木ら（2007）および中田ら（2008）によると、能登半島北方を流れる対馬暖流の強さは、夏季にピークとなることが示されているほか、この時期には湾内へ進入する流れが冬季より西岸沿いに流入することが示されている。能登地方では毎年のようにカツオノカンムリが確認されていることから、今後、夏季の海水温上昇に伴って富山湾内へ流入する本種の確認例が増加すると推測される。

今回のカツオノカンムリの発見は、ヒスイ海岸で石拾い中の発見や、海岸を散歩中に発見するなど偶発的で、その情報を当館に連絡いただいたものであった。

近年、海辺の漂着物を観察・採集する愛好者がSNSを使用して情報発信や情報収集を行うケースが増加している一方で、水族館や博物館に連絡がない場合も多い。今回はSNSをきっかけに情報提供をいただけたこともあり、

今後の継続的なデータ収集のために SNS を活用して広く情報収集する手法を模索したい。

謝辞

カツオノカンムリの漂着情報は堀江健夫氏（朝日町宮崎ヒスイ海岸）、松田武光氏（朝日町大屋の海岸）、平田芳富氏（氷見市島尾の島尾海岸）からいただいた。また、ルリガイ、ギンカクラゲの写真は魚津水族館飼育員の木村知晴氏、宮崎沖のギンカクラゲの写真は朝日町漁業協同組合所属の漁業者である加藤康介氏（朝日町）から提供していただいた。さらに聞き取りでは、のと海洋ふれあいセンターの東出幸真氏、新潟市水族館館長の野村卓之氏、鶴岡市立加茂水族館の渡辺葉平氏から貴重な情報をいただいた。以上の皆様方に、深く感謝申し上げます。

引用文献

- 相木智一・磯田 豊・矢部いつか・黒田 寛.
2007. 富山湾周辺海域における表層流の季節変化, 海の研究 16 (4) : 291-304.
- 久保田信. 2015. 著者, 峯水 亮・久保田信・平野弥生・ドゥーグル＝リンズィー. 日本のクラゲ大図鑑. p. 290. 株式会社平凡社.
- 中田聡史・笹島雄一郎・広瀬直毅・尹宗煥・磯田 豊. 2008. 富山県周辺の対馬暖流域における流動場の季節変化, 月刊海洋/号外 47 : 58-78.
- 志賀健司. 2011. 北海道石狩浜へのカツオノカンムリの漂着. 漂着物学会誌 9 : 33-34.
- 鈴木明彦・圓谷昂史・志賀健司・小林真樹・石川慎也. 2017. 北海道沿岸へ漂着した暖流系浮表性巻貝類とクラゲ類. 地球科学 71 : 89-91.
- 環境省 生物多様性センター 海辺調査総合

報告書 2.3 海岸改変状況調査

pp120-260. <https://www.biodic.go.jp/reports/umibe/umibe2.pdf> (オンライン. 参照 2023 年 12 月 20 日)

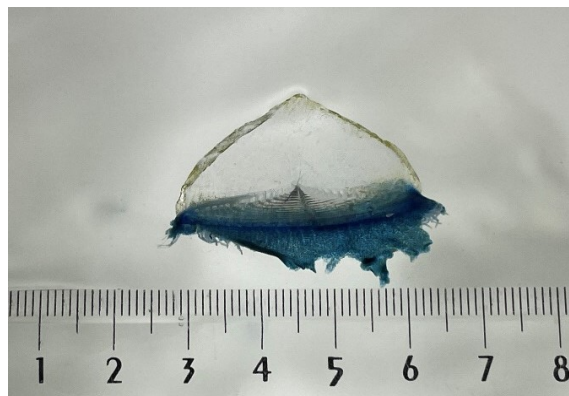


図2 朝日町宮崎ヒスイ海岸 (2022. 7. 27)



図3 朝日町大屋の海岸 (2022. 7. 27)

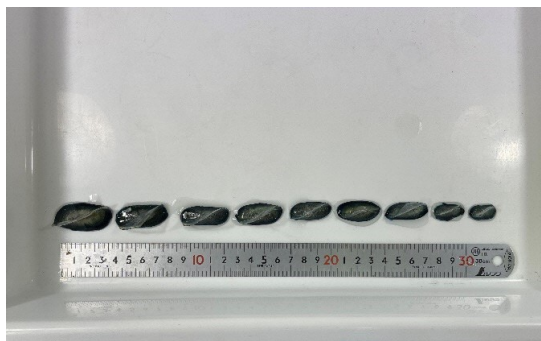


図4 朝日町大屋の海岸 (2022. 9. 3)



図5 氷見市尾島海岸 (2021. 9. 19)



図6 氷見市松田江浜に漂着したルリガイ
とギンカクラゲ (撮影：木村知晴)
(2020. 10. 8)



図7 宮崎沖に浮かぶギンカクラゲ
(撮影：加藤康介) (2022. 10. 21)

魚津水族博物館年報 第 33 号

ANNUAL REPORT OF UOZU AQUARIUM No.33

2024 年 2 月 編集

編集／魚津水族博物館

〒937-0857 魚津市三ヶ 1390

TEL (0765) 24-4100

FAX (0765) 24-4128

HP <https://uozu-aquarium.jp>

E-mail suizoku@city.uozu.toyama.jp